

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News

AGUニュース第54号 [2010年11月~12月号]

2010 青山学院大学

No. 54
広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL. 03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp>

特集

国際社会への大きな貢献につながる大学院の新しい取り組み

グローバル・エキスパート・プログラム 戦略経営・知的財産権プログラム

秋から冬シーズンの恒例イベントを支える学生たち
青山祭、相模原祭／クリスマス・ツリー点火祭／オール青山メサイア公演

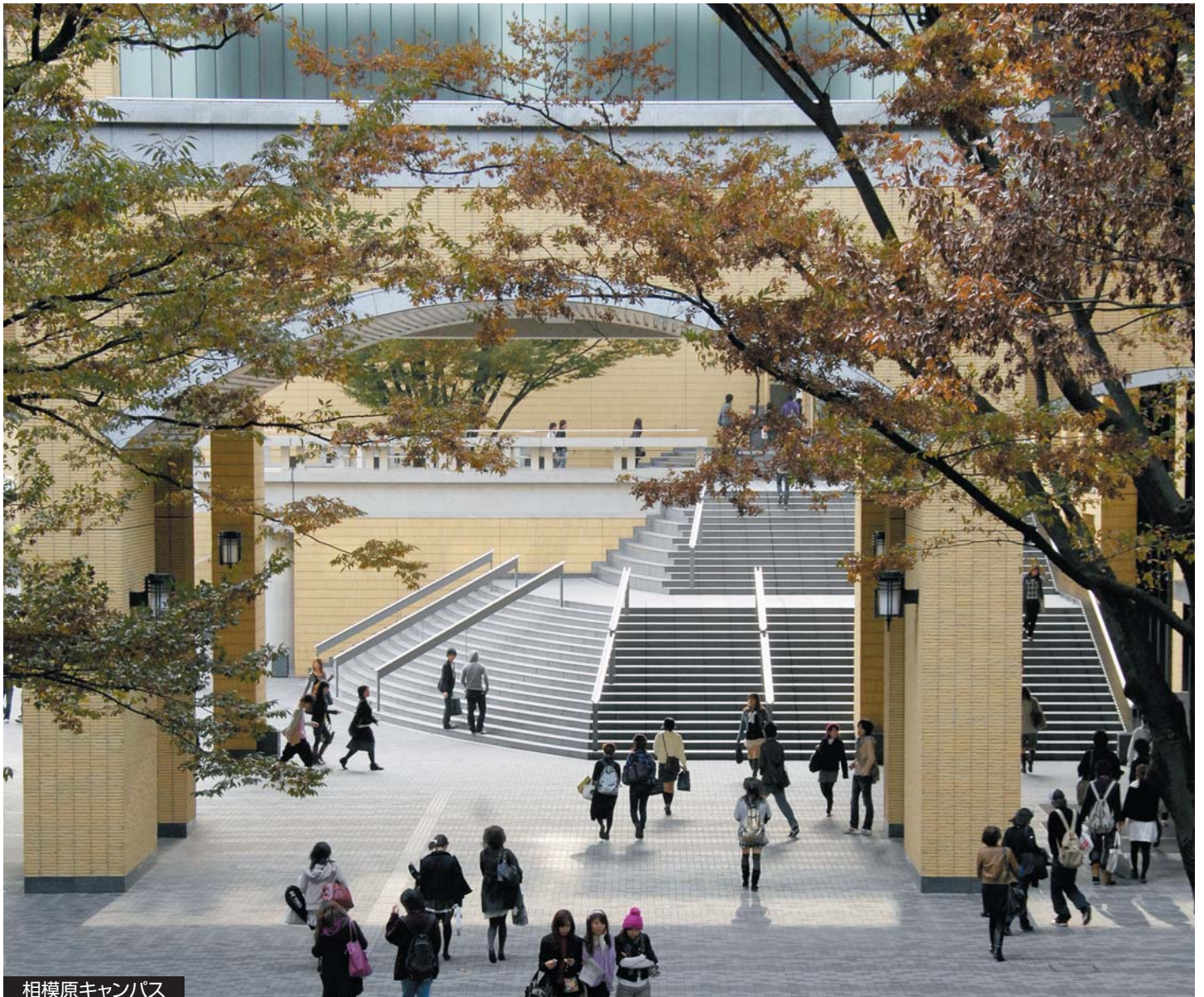
TOPICS 「全日本ジュニア短歌大会」で、文学部日本文学科
日置ゼミの学生の作品が入賞しました

「I-SHINビジネスプランコンテスト」で、国際政治経済学部
岩井ゼミの学生チームが優秀アプリケーション賞を受賞

報告・お知らせ 2010年度 給付奨学金・学業奨励賞
青山学院大学後援会報告

誌上公開講座 青学オープンカレッジ 青山リレートーク
日米の愛憎関係のシンボルとしてのラフカディオ・ハーン

INFORMATION 半田正夫氏を青山学院理事長に選任
2010年度 就職関係行事について



相模原キャンパス

大学院の新しい取り組み2件を紹介します

今年度から取り組みが始まった国際政治経済学研究科の「グローバル・エキスパート・プログラム」と、来年度からの本格スタートに向けて準備が進められている経営学研究科の「戦略経営・知的財産権プログラム」。どちらも現代の国際社会が抱える問題点にアプローチする斬新的な取り組みです。今回はそれぞれの研究科長とプログラムを担当する教員、学生による座談会を通じて、取り組みの内容を紹介します。

グローバル・エキスパート・プログラム (GLEP) 国際政治経済学研究科

国際社会の平和と安全に貢献する “グローバル・リーダー”を育てます

海外志向の人材を育成する

GLEP & GLEP Youth

仙波 現代は、国際紛争、貧困、環境保全、金融不安など、他国が抱える問題が国境を越え、さらに複雑化、深刻化を増して世界中に影響を与える時代です。高度な専門性を持ち、地球規模の諸問題解決と持続的発展の推進役を担う政策の専門家が「グローバル・エキスパート」であり、本研究科が2010年度よりスタートさせた「グローバル・エキスパート・プログラム (GLEP)」では、真に国際社会に貢献するグローバル・エキスパートを育成します。

国際社会の平和と安全に貢献し、世界のグローバル・リーダーになるには専門的能力だけではなく、本学の教育理念「地の塩、世の光」に通じる、社会的責任感と高い倫理性を兼ね備えることが必要です。つまりGLEPは、本学ならではの取り組みであると自負しています。

塚本 GLEPの定員は10名程度ですが、初年度から意識の高い院生たちが参加してくれました。その代表として、今日は志垣さんが来てくれています。

志垣 私はずっと国際コミュニケーションを専攻してきて、現在は日本と韓国との民族や文化的な関係性に関心があります。GLEPの存在を知って、何か国際協力できる環境が得られるのではないかと思います。

仙波 本プログラムでは「理論科目群」「実務家担当科目群」「研修科目群」と3本の柱からなる実践的カリキュラムを用意しています。1年次に高度な理論的分析能力と実践的感覚を身につけたうえで、2年次には提携する韓国、インドネシア、タイの大学院でのインターンシップや演習を体験

するのが特色です。志垣さんも研究テーマである韓国の大学院で学ぶことを視野に入れているのですか。

志垣 はい、そのつもりです。現地を体験することでしか理解できないことがあると思いますので。

塚本 GLEPは大学院向けのプログラムですが、実は取り組みスタート後に、その内容を知った学部生から「ぜひ自分も学びたい」といった問い合わせが相次ぎました。この反応の良さは放っておけないと、学部生を対象にした「GLEP Youth」という団体を結成しました。いわば“GLEP予備軍”です。本日は代表として新井さん、田原君に来てもらいました。

新井 私はもともと「国際協力」に関心がありました。ただ大学の授業で理論的なことは学べますが、いざ自分で“行動に移す”には何をすればいいのか、が見えてこなかったのです。GLEP Youthの話聞いて、「自分にも何かできることがあるかも」と考えて参加しました。

田原 僕も以前から海外志向が強く、高校時代にフランスに1年間留学した経験があります。将来は国連やNGOなど、海外を舞台に働きたいと考えていますが、GLEP Youthは、まさにそんな目標を持った学生のための団体だと思いました。

開発途上国に貢献するには、 まずその現場を知ることが必要

仙波 本プログラムがスタートして半年程ですが、既に海外での活動にも着手しています。志垣さんはタイ、新井さんと田原君はネパールに行かれましたが、現地の様子はいかがでしたか。

志垣 タイの難民キャンプに行ってきた

た。そこにはミャンマーから移民してきた人々が生活しています。決して広いとはいえない制限された地域に、約2万人の人々が暮らしているのです。難民キャンプの様子は映像や写真などで見たことはありませんでしたが、現地の厳しい暮らしぶりは想像を超えていました。やはり現場に足を運び、地元の人たちと実際に話してみることは大切だと再認識しました。

新井 GLEP Youthでは初年度の活動として、ネパールを対象とした「Peace Clean Upプロジェクト」を推進し、開発途上国の方々のために何か貢献できることを探求していく予定です。その一環として、私と田原君ともう一人の同級生との3名が夏休みを利用してネパールに行ってきました。いわゆる開発途上国と呼ばれる国に行くのは初めてでしたが、その日本との生活環境の違いに驚かされました。現地に貢献する内容を確認しに行ったはずなのに、「本当に私たちにできることがあるのかな?」と悩む結果となり、プロジェクトについても不安と期待が半々というのが正直な感想です。

田原 僕も初めて貧困に悩む国の現状を目の当たりにして、いま世界が抱えている問題の一端を感じました。まだ大学に入学して半年ですが、自分がまさかこんなに早く、国際協力のプロジェクトに参加できることは考えていなかったもので、少しびっくりしています。ただ自分からアクションを起こせば、やりたいことにチャレンジできる環境が得られるのが大学だと実感しているところです。

塚本 本学には海外研修の機会は豊富に用意されていますが、その多くは短期的なものです。GLEP Youthのネパールを対象にしたプロジェクトも、単に現地を訪れて終わりではなく、それらを長期的な取り組み

みとして実際の国際貢献につなげなくては意味がありません。今後も現地との交流を続け、年内には明確な成果を導き出したいと考えています。

またGLEPの方も志垣さんがタイに行ってきましたが、実は日本政府が今年からタイの難民キャンプに暮らすミャンマー人を30名ずつ3年間受け入れる支援体制を実施しており、その一環として開催されるシンポジウムなどのイベントの現場にGLEPの院生を派遣する予定です。現地だけでなく国内にいても貴重な経験を積める場は豊富にあります。

国際協力へとつながっていく さまざまな“入口”を用意

仙波 GLEPでは、将来、外交官や国際公務員、国際NGOなど地球規模の諸問題に関わりたいと考える人材の育成を目的としています。みなさんの現段階での目標をぜひ聞かせてください。

志垣 難民キャンプの方々には日本やアメリカなどの先進国に定住する際の不安点をお聞きすると、多くの人が「語学」と「生活環境」であると話していました。彼らには先進国の情報はほとんど入りませんから、そういった情報を提供するコミュニティ支援的な役割を担うことができれば、貧困に苦しむ方々に少しでも視野を広げてもらえて、希望も与えられるのではないかと考えています。

田原 将来は国連やNGOで働きたいので、とくに大学1、2年生の間は、いろいろな知識を吸収したいと思います。もちろん機会があれば海外にもどんどん行くつもりですし、世界が抱える問題を肌で感じたいです。

新井 私はちょうど就職活動を控えた時期です。夏休み前までは大学院に進むか、民間企業に就職するかで悩んでいましたが、いまは民間企業を目指す気持ちが強くなりました。ネパールのインフラ整備が遅れている現状を見て、これらの問題を解決することも立派な国際貢献だと気付いたので、インフラ整備に関わる企業が第一志望です。そして、民間企業で何年か経験を積んだうえで、あらためて大学院に入れば、より幅広い視野を持って研究に取り組めると考えています。

塚本 そういったアクティブな考え方の人に、ぜひGLEPに来てもらいたいです。自

分の視野を海外にも広げ、さらに行動的な人であれば、GLEPの学びを存分に堪能してもらえましょう。

仙波 そうですね。私も学部生、社会人を問わず、視野の広い人、言い換えれば何か問題意識を持っている人に集まってもらいたいですね。GLEPでの学びを通じて見えてくる「国際理解」「平和貢献」といったものは、研究を進めていくうえでの産物、いわばアウトプットです。そのアウトプットのための生産プロセスこそ大切だと思います。それには常に自らのヴィジョンとなる強い意識が必要なのです。

田原 自分で「国際貢献に関わりたい」と問題意識を持ったとしても、それをすぐに行動に移せる環境には普通ではなかなか出会えません。GLEPやGLEP Youthは、学生にとって“世界への窓口”。いろいろな仲間と一緒に世界に目を向けられる貴重な機会です。

新井 確かにGLEP Youthにも当事者意識というのか、何事にも積極的で責任感の強い人が集まっています。まずは、ネパールの人たちにとって最適な支援を見つけ出し、「Peace Clean Upプロジェクト」を成功させたいですね。

志垣 先日のタイで新しいNGOを立ち上げた女性と話をする機会がありました。彼女が「これまで失敗ばかり。でも失敗しても、また新しいアイデアを考えて再スタートすればいい」と話していたのを聞いて、「これまでの失敗にくよくよせず、これから頑張ればいい」と前向きに考えられるようになりました。

塚本 その通りだと思います。いろいろな経験をして、何度も失敗すればいいんです。失敗から学べるのが本当にたくさんありますから。GLEPの取り組みもまだ始まったばかり。今後はネパールを拠点とした事業を始める計画もありますし、提携する大学院のネットワークもさらに広げたいと考えています。スムーズにいかないこともあるかもしれませんが、何事にもアクティブに取り組み、多くの学生や院生たちの国際協力への関心に対し、さまざまな入口を用意できるプログラムを構築したいです。

仙波 これからますます活動が本格化していきます。みんなでより充実したプログラムにできるよう頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。



国際政治経済学研究科長
仙波 憲一



国際政治経済学研究科 プロジェクト教授
塚本 俊也



ネパールの山間部の村で子どもたちと交流



国際政治経済学研究科
修士課程1年 (GLEP)
志垣 宣枝さん



国際政治経済学部3年 (GLEP Youth)
新井 沙羅さん



国際政治経済学部1年 (GLEP Youth)
田原 翔太郎君

GLEPの最新情報はこちら
<http://glep.sipeb.aoyama.ac.jp/square/>



経営学研究科長
田中 正郎

戦略経営・知的財産権プログラム (SMIPRP) 経営学研究科

青山学院大学で最初の 英語による授業のみで卒業できるプログラム

開発途上地域の将来を担う 若者をSMIPRPは育てる

田中 経営学研究科では、従来の経営学、会計学、IMC統合マーケティングの3部門に加え、今年4月に戦略経営・知的財産権部門を新設しました。そして同部門を礎としながら2011年4月より、海外からの留学生を対象にした新コース「戦略経営・知的財産権プログラム (SMIPRP)」を創設するべく、安田教授と竹内准教授が中心となり、開設準備を進めているところです。

SMIPRPは、開発途上国の税関職員を主たる対象とし、マネジメント分野の授業を英語で行い、修士(経営学)の学位を取得できる新しい教育プログラムです。このプログラムはベルギーのブリュッセルに本部を置くWCO(世界関税機構)の資金にもとづいて運営がなされます。

もともと本研究科では、青山に位置する立地を活かして社会人に教育の場を積極的に提供してきました。「社会人教育」という枠組みでは、日本も外国も同じであり、また開発途上国に対する国際貢献にもつながるはずと考えています。

安田 すべての授業を英語で行い修士を取得できるコースは、日本国内では珍しく、まだまだ新しい取り組みといえます。開発途上国における税関職員のマネジメント能力の向上が最大の目的になりますが、カリキュラム的には、マネジメント分野のコア科目はもちろん、競争戦略論や税関法などの専門分野、実地研修や施設見学、さらには論文指導など、広範な領域について学ぶ予定です。

竹内 国際開発の分野では、ODAやNGOなどによる途上国の開発援助が知られていますが、主として日本から海外に出向いて援助・支援する形が一般的です。今回のSMIPRPのように日本で途上国の人材

を受け入れて育成する形の開発援助は未だ不十分と思います。しかも関税局組織にフォーカスしての学びというのも新しいアプローチであり、非常に楽しみです。

田中 まったく新しい取り組みですから不安や課題もあります。とくに英語のみで授業を行うための体制を整えるには、かなり周到な準備が必要です。留学生の教育指導を担う教員、および留学生の修学支援や生活支援を行う事務職員の体制を今年度中に構築していくつもりです。

10名強の定員に対して、 42ヶ国100名を超えるエントリー

田中 既に入學試験の初年度の応募は締め切り、現在選考作業に入っています。選考は書類、論文(エッセイ)、面接の流れで実施しますが、海外にいる受験生とのやりとりは、すべてインターネットを通じて行うのが基本です。面接もテレビ会議システムで行います。受験生が日本に来ることもなく、願書受付から合格発表までウェブ上で完結させるシステムも青山学院大学では初めての試みです。

安田 応募に関しては想像以上に反応が良く、10名強の定員に対して100名を超えるエントリーがありました。受験生の出身国を見てもアフリカ、中東、東南アジアなど、幅広い地域にわたっています。通常の留学生といえば中国、韓国、アメリカ辺りが主流ですから、これまでにないエリアからの留学生を受け入れることになりそうです。

竹内 実は私も国内の大学院で国際開発に関して学びましたが、そこもあらゆる地域の国々から院生が集まり、授業も英語で行うシステムでした。私は日本人として入学したわけですが、アジア、アフリカ、欧米などさまざまな地域の仲間と一緒に過ごした経験は、とても充実していたといまでも思っ

ています。青山学院で学ぶ留学生たちに、日本での生活を充実したものにできるよう、学習環境を用意したいと思っています。

田中 確かにあまり馴染みのない国の人たちとの交流は、日本人学生にとっても貴重な経験になりそうです。また税関に勤める職員ということは、その国の将来を背負って立つ人材といえます。そういった優秀な人材を相手に教育できるのは、青山学院としても、また我々教員としても、とてもやりがいを感じられることだと思います。

安田 開発途上国と現在呼ばれている国々も20年後、30年後には、グローバル経済の中心に位置しているはずですよ。その中核となる人材が、青山学院で学んでいたというエピソードは、すごくインパクトが大きいと思います。そのころには本プログラムの卒業生が世界各国にいるはずですよ、こうした夢は大きく膨らみますね。

日本企業のすぐれた実践にねぎす 日本的経営を伝える教育

田中 安田先生は「競争戦略論」や「経営戦略論」、竹内先生は「組織行動論」や「人材マネジメント論」といった専門分野をお持ちですが、それぞれの視点から開発途上国の未来を支える世代に伝えたいことはありますか。

安田 私自身、企業での生活が長く、グローバルに不可欠な競争原理も実践として体験してきました。そうした現場での経験を積極的に伝えたいと思います。また、アジアの国々に行くと、いまでも日本に留学して勉強したいという人がたくさんいます。しかし、彼らには生活費や学費など費用面、一方の日本側には受け入れる体制が不十分という問題があり、なかなか実現していないのです。今回のSMIPRPは、費用面はWCOが支援し、本研究科が受け入れ体



経営学研究科 教授
安田 洋史

制を整えた留学システムの理想形。意欲のある留学生にとっては絶好のチャンスだと思うので、どんどん有効に活用してもらいたいです。

竹内 私は組織における人の行動やマネジメントについて研究しています。例えば「人材」に関しても日本と海外とでは考え方や意識が異なります。日本の企業は人を育てる術に優れていて“make”の側面があります。一方の欧米の企業では、ヘッドハンティングなど必要な人材は別の会社から連れてくる、いわば“buy”の側面があります。開発途上国には資金的に恵まれた企業も少なく、欧米よりは日本型の人を育てる人材マネジメントが重要な視点となるはずです。そういった組織や人材の仕組みを伝えて、それらの知識を自国へ持ち帰った彼らが、また新しい人材を育てるような流れを築ければ理想的です。

開発途上地域の発展に 青山学院として寄与する

田中 SMIPRPは、本研究科が国際化を本格化させる試金石とも呼べる取り組みです。このような留学生受け入れの施策とあわせて、海外大学院への留学生派遣や単位互換など、さらなる国際化の推進を考えています。

竹内 残念ながら日本という国全体が国際化の波に乗り遅れています。それは外国人の受け入れについても、日本人が外国に行くことについてもいえることです。先日、アメリカで経営学の学会に参加したときも、日本人よりも中国、韓国、台湾から参加した発表者の方が2倍以上いました。SMIPRPを通して、国境を越えた交流が数多く生まれ、日本の新しい国際化の幕開けを青山学院大学から発信できるようになればうれしいと思います。

安田 私もアメリカに留学した経験があり、その経験は今の自分にも大きな影響を与えています。それは自身の原動力ともいえ



経営学研究科 准教授
竹内 規彦

るものです。日本の文化、教育に触れることで、留学生たちには原動力となる何かを掴んでもらいたいと思います。また逆に、開発途上国が抱える現場の問題意識のなかには、我々の知らないこともあるかもしれません。そこから新しい研究分野が生まれる可能性もあります。プログラムのスタートが本当に楽しみです。

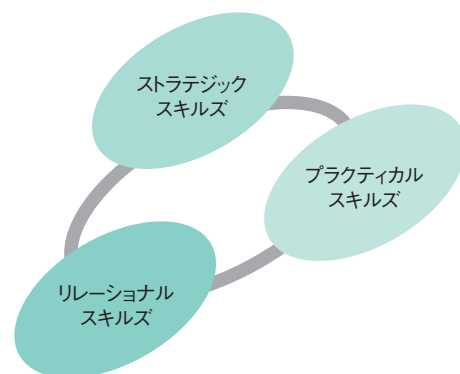


田中 アメリカの経営手法がスタンダードだと言われて久しいのですが、今回の取り組みは、本当にそうなのかを考える良い機会かもしれません。日本人の研究成果にも欧米の研究に勝るものが数多く存在するのですから。開発途上国と呼ばれるアジア、アフリカ、中東の国々にもそれぞれの価値観がありますが、日本の価値観がマッチングし、自国の良さを輝かせ、自国に誇りをもたらせるケースも考えられるはずです。我が研究科にも世界に伝えたいほどの研究成果を挙げている教員がたくさんいます。そうした“青山学院の成果”が留学生たちに注がれることを今から期待しています。

とにかく、まずは1期生を迎える最初の1年を大切に、SMIPRPの土台を強固な岩としたいと思います。

そして、SMIPRPの卒業生たちが彼らの出身地域の発展に良き働きができるように育てたいと思います。

SMIPRPで身につけるスキルイメージ



秋から冬シーズンの恒例イベントを支える学生たちに聞きました



「青山祭」と「相模原祭」は、毎年進化を続けています!!

2010年度は10月9日(土)・10日(日)に開催された「相模原祭」に続き、「青山祭」が10月29日(金)～31日(日)の日程で開催されます。今年の企画内容、見所となるポイント、さらにはテーマに込められた思いなど、両実行委員長に話を聞きました。



青山祭実行委員会
委員長 吉田 大君
経営学部経営学科3年



相模原祭実行委員会
委員長 太田 翔君
理工学部電気電子工学科2年

今年のテーマに込められた思いを聞かせてください。

吉田 青山祭の今年のテーマは「青二才が世界を揺らす」です。まず「青二才」は、未熟な若者たちが自分たちを謙遜して使う言葉ですが、この慎ましさがキリスト教の学校に学ぶ我々らしい姿勢だと考えました。そしてテーマに盛り込みたいコンセプトだった「躍動感」を「世界を揺らす」の部分で表現したつもりです。「学生という、まだ大人になりきれていない自分たちではあるが、この学校で学んだことや経験したことを、ここで出会ったかけがえのない仲間とともに表現することで「世界」に変化をもたらせたい」との考えを込めました。

太田 相模原祭に来場いただいた方々には、何かひとつでもいいので、ここに来たからこそ得られた「新しい発見」を感じ取ってもらいたいと考えています。そこで今年の相模原祭のテーマである「MESSAGE」という言葉には、我々が来場者にお知らせしたいこと、お届けしたいことをしっかり形にすることで、等身大の大学生の現状、そしてこれから我々が築いていく未来像や世界観などを伝えたいとの思いを込めました。この『AGU News No.54』の発行時には相模原祭は終了していますが、我々の思いが来場者に届いていれらうれい입니다。

今年の企画内容のPRをお願いします。

吉田 今年は多彩な才能を発揮されているリリー・フランキー氏、日本マクドナルドホールディングス株式会社の原田泳幸氏、さらに女優・モデルなどマルチに活躍中の山田優氏による講演会が決定しました。また、本番より1週

間早い10月24日(日)開催の青山祭ライブには、学園祭の出演は5年振りとなる「コブクロ」が登場します。

太田 相模原祭でも芸能人を招いてのトークショーは目玉企画のひとつです。今年は初日に『ごくせん』や『タンブリング』などのドラマにも出演して大人気の三浦翔平さん、2日目にグラビアアイドル、タレント、女優と幅広い顔を持つほしのあきさんをお呼びしました。

吉田 現実として講演会やライブが目当てで来場される方は多く、それはそれで良いと思っているのですが、その一方で「それだけじゃないぞ!」という思いも強いです。例えば、中庭ステージや7号館前のステージでは選抜された学生による音楽やダンスのパフォーマンスが連日開催されます。また、広告研究会による「ミス&ミスター青山コンテスト」も毎年注目のイベントです。そして何よりお伝えしたいのは、この青山祭を大きな目標として日々の活動に取り組んでいるクラブ&サークルの存在。つい華やかなステージに目が行きがちですが、例えば文化系サークルも各教室で渾身の作品を展示・発表したり、独自にゲストを呼んでイベントを開催したりなど、楽しい企画を展開しています。

太田 そうですね。どうしても著名人の企画が目立りますが、それだけではありません。相模原祭では「体験型」「鑑賞型」「環境型」「大学共催」と企画内容を大きく4つのコンセプトに分けて、それぞれに多彩なイベントを用意しました。老若男女を問わず、誰もが楽しめる企画ばかりだと自負しているので、何かひとつでも来場者の方々の余韻に残るようなMESSAGEをお届けできるのなら良いのですが…。

吉田 それと例年注目される本学のエコへ

の取り組みですが、今年の青山祭では昨年よりさらに進化して10種類のゴミ分別を徹底させます。お手数ですが、地球環境のために、ぜひご協力ください。

太田 環境対策に関しては相模原祭でも毎年「環境戦隊ECOレンジャー」を登場させるなどして積極的に告知しています。これは相模原祭が終わった後も相模原キャンパス全体で続いていく取り組みだと思えます。

最後に読者へのメッセージをお願いします。

太田 今年の相模原祭では、非常にタイムリーな情報に触れられる企画も用意しました。例えば「流行」の本質を知る機会として、スマートフォン、ファッション、ボランティアについて学べる「TREC〜トレンドレクチャー〜」、あの小惑星探査機はやぶさで知られるJAXAと提携した「うちゅうにむちゅう〜僕らはスペーストラバラー〜」など、普段は滅多に触れられない情報をキャッチできる企画です。参加された人には、ぜひ今年の感想をお聞かせいただきたいと思えます。そしてそれらのご意見は、来年度以降の相模原祭に反映していけるよう、後輩たちにしっかり引き継ぐつもりです。

吉田 とにかくひとりでも多くの学生に青山祭に参加してもらいたいです。ライブを1週間前に移したのも、また恒例の提灯行列を最終日ではなく中日(10/30)に設定したのも、それぞれの準備や後片付けでイベントに参加できない学生を少しでも減らそうと考えた末に決断したこと。「青学生のための青山祭」を実現したいと思います。ぜひ、10月29日(金)から31日(日)の青山祭に遊びに来てください。

(2010年9月22日 青山キャンパスにて)

今年も「クリスマス・ツリー点火祭」に、第二部聖歌隊の歌声が響き渡ります

本学の建学の精神を支える行事「クリスマス・ツリー点火祭」が、11月26日(金)に青山・相模原の両キャンパスで開催されます。青山キャンパスでは大学から初等部までの聖歌隊が集い、美しい歌声で行事に花を添えますが、大学からは第二部聖歌隊が出演。日頃の練習の成果を大舞台上で披露します。

第二部聖歌隊にとっては、第二部(夜間部)の学生募集停止という背景もあり、今年が最後のクリスマス・ツリー点火祭。最後の機会となる点火祭に臨む気持ちを隊長である小林さんに聞きました。



第二部聖歌隊 隊長
小林 加奈子さん
文学部第二部英米文学科4年

大学、女子短期大学、高等部、中等部、初等部と青山学院各校の聖歌隊が集うクリスマス・ツリー点火祭は、歌う側の私たちにとっても、すごく楽しい行事です。第二部聖歌隊は現在4名で、みんな日々の仕事と勉強を両立させながら、毎週土曜日の午前中に聖歌隊の練習を行っています。練習やステージには、多くのOB・OGの方も参加してくれるなど、楽しい時間を過ごしてきたので、今年度で活動が終了してしまうのは残念です。最後のクリスマス・ツリー点火祭でもツリーの灯りが醸し出す幻想的な雰囲気をさらに盛り上げます。ぜひ多くの方に聴いていただきたいです。

〈クリスマス・ツリー点火祭〉

イエス・キリストの降誕を待ち望む礼拝として行う青山学院の恒例行事です。各キャンパスのクリスマス・ツリーに灯をともすと幻想的な空間が浮かび上がります。

■日時 11月26日(金)

相模原キャンパス 16時30分～17時10分

青山キャンパス 17時20分～18時00分

第35回「オール青山メサイア公演」が、12月23日(木・祝)に青山学院講堂にて開催されます

「オール青山メサイア公演」は、青山学院の複数の合唱団体と管弦楽団が協力し合い、学生主体で企画・運営・演奏を行う一大イベントです。第35回目を迎える今年は12月23日(木・祝)に青山キャンパス内の青山学院講堂での開催が予定されており、各参加団体も公演に向けた練習が徐々に熱を帯びてきました。

オール青山メサイア公演の歴史や概要、そして今年の見所などについて、同公演の実行委員長を務める鈴木正太郎君(青山学院管弦楽団)と、合唱責任者の澳原壮太君(青山学院大学グリーンハーモニー合唱団)に聞きました。



第35回オール青山メサイア公演実行委員会
実行委員長
鈴木 正太郎君
青山学院管弦楽団
文学部英米文学科4年

1976年12月18日に初演が行われたオール青山メサイア公演も今年で区切りの第35回を迎えます。『メサイア』は、イギリスの作曲家ヘンデルが聖書の言葉に曲を付けた作品であり、青山学院に通う学生が演奏するのにふさわしい演目です。私は、全体を取り仕切る実行委員長を務めながら、今年は管弦楽団の一員としてクラリネット演奏で舞台上に立ちます。通常の公演は3年生が主体となる管弦楽団ですが、この『メサイア』だけは、4年生主体で演奏する伝統があり、私も今年が初めての舞台です。

全53曲の3部構成で演奏される『メサイア』は、ほとんどの曲に聖書の歌詞が付いていますが、第1曲目と第13曲目だけは歌のないオーケストラのみの演奏になっています。第1曲目は物語のプロローグともいえる部分なので自然に受け入れられるはずですが、途中の第13曲目に歌のないパートが設けられている理由は、その前の第12曲目までが「旧約聖書」、第14曲目以降が「新約聖書」が歌われる、その区切りとなっている曲だからです。こうした意味を事前に知っておいた方が、より深く『メサイア』を楽しんでいただけたらと思います。

寒い時期ではありますが、わざわざお越しいただく方々のために、心温まる演奏と合唱をお届けします。『メサイア』を通じて、キリストへの理解を深めるとともに、青山学院への親近感を感じていただければ幸いです。



第35回オール青山メサイア公演実行委員会
合唱責任者
澳原 壮太君
青山学院大学グリーンハーモニー合唱団
文学部心理学科3年

今年のオール青山メサイア公演の合唱パートには、私が所属する「青山学院大学グリーンハーモニー合唱団」をはじめ、「青山学院大学聖歌隊」「青山学院大学第二部聖歌隊」「青山学院大学第二部合唱部コール・フロッシュ」「青山学院女子短期大学ゴスペルグループ」の計5団体が参加します。

『メサイア』の合唱の“聴き所”をあげるとすれば、まずは第1部の第12曲目でキリストの降誕が歌われるため、この曲が近づくにつれて大いに盛り上がり、場内も華やかなムードに包まれます。また第2部は基本的にキリストの受難がテーマなので、全体的に厳かな雰囲気が進むのですが、復活へとつながる最後には、誰もがご存知の「ハレルヤ」コーラスの大合唱。みなさんも、ぜひ一緒にハレルヤを歌ってください。そして復活と永遠の生命が表現される第3部には神秘的な曲が多く並びますが、そのラストの「アーメン」コーラスも聴き所のひとつとして注目していただきたいです。

聖書の言葉にヘンデルが曲を付けて完成した『メサイア』。せっかくのクリスマスシーズンですので、オール青山メサイア公演で聖書に親しみ、少し厳かな心で今年のクリスマスを迎えるのも素敵だと思います。ぜひ12月23日は、本公演まで足をお運びください。

オール青山メサイア公演の最新情報はこちら
<http://aoyamamesiah12.web.fc2.com/>

青山マーケティング・シンポジウム2010 「IMC～その誕生、普及から次世代へ～」を開催

2009年4月に誕生した経営学部マーケティング学科が2年目を迎えたことを記念し、2010年7月10日(土)に青山キャンパスにて、第3回青山マーケティング・シンポジウムを開催しました。今回のテーマは、変わるメディア環境下で多様なコミュニケーション手段を統合的に活用するIMC(Integrated Marketing Communications)に再び関心が集まっているのを受けて、「IMC～その誕生、普及から次世代へ～Past,Present,Future」としました。

今回の青山マーケティング・シンポジウムは、2008年の「新しいマーケティングを求めて～日本とイタリアのしあわせな出会い～」、2009年の「地域の時代のIMCマーケティング～もうひとつのマーケティング～」に続く、第3回目となるイベントです。次世代マーケ



シュルツ・ノースウェスタン大学名誉教授

パネル・ディスカッション

ティングを検討し、マーケティング学科の設立意義、将来像を確立することを目的に開催され、当日は青山キャンパスのガウチャー記念礼拝堂に400名を超える来場がありました。

イベントは田中正郎経営学部長の開会挨拶のあと、マーケティング学科主任の小林保彦教授が、テーマ解題として「IMC～その誕生、普及から次世代へ～」を講演。マーケティングの発展と挫折、マーケティング革新として何故IMCが誕生したかについて解題しました。

続いてはIMC・マーケティング研究の世界的な第一人者ノースウェスタン大学名誉教授ドン・E・シュルツ博士が「マーケティングに期待される役割の近未来像」をテーマに講演。「工業化の時代」に生まれたアメリカのマーケティング概念は現代には合わず、これからは思い切った発想の転換が必要と示唆されました。

さらに第二部では、マーケティング学科の三村優美子教授をモデレーターに、関沢英彦東京経済大学教授、広村俊悟トッパン・フォームズ株式会社常務取締役、小林教授のメンバーで、「日本マーケティング～生活世界に向かって～」をテーマとするパネル・ディスカッションが行われ、日本のマーケティングを元気にしていくための方法や、青山マーケティングの可能性などについて活発に議論されました。

(経営学部マーケティング学科教授 小林 保彦 記)

第8回青山学院会計サミット「IFRSへの対応と日本の会計戦略」を開催

会計専門職大学院として開設された会計プロフェッション研究科の対外的発信、院生の外部との交流による研修およびFD活動の一環として毎年恒例の会計サミットが、2010年7月21日(水)に青山キャンパスのガウチャー記念礼拝堂にて開催されました。いま注目の国際財務報告基準(IFRS)導入に関して、その対応と日本の会計戦略をテーマに、有意義な意見発表と討論が行われました。

第一部は、会計実務家の公認会計士として業務を行いながら、落語による会計知識の普及に努め、多数の著書や落語家・漫談士とのイベントに大活躍の田中靖浩氏による特別講演「会計国際化の今、落語に学ぶコミュニケーション」を開催。「IFRS



田中靖浩氏

に黒船がやってきた」と大騒ぎするマスコミ、「IFRSが日本の経営を変える」と煽りまくるコンサルティングファーム、そして怯える経済界の子羊たちと、現在の環境を形容し、しかしその重要性を解説し、特にそのスムーズな導入に対しては、関係者のきめ細かいコミュニケーションとそううえで十分に納得して進めることの重要性を説かれました。

第二部のパネル討論会は、「IFRSへの対応と日本の会計戦略」をテーマに、それぞれの立場から積極的な意見開陳が行われました。

金融庁総務企画局企業開示課長の三井秀範氏は、「国際会計基準を巡る諸状況と我が国の対応」に関して言及。上場企業の連結財務諸表への強制適用については、①IFRSの内容に我が国の意見が反映されているか、②我が国の会計実務がIFRSに十分対応で

きているか等のIFRS適用に向けての諸課題の達成状況を十分に見極めたうえで、2012年を目処に是非を判断される旨を述べられました。

経済産業省経済産業政策局

パネル討論会

企業行動課企画官の平塚敦之氏は、「我が国企業の国際競争力・戦略の成長という観点からの会計制度設計のあり方」を提案。会計制度は、企業関係者間での利害調整機能や税所得計算等日本の経営の基盤となっていること、会計基準の国際化の重要性とともに経営に根ざした日本基準を残すこと等も重要であると指摘されました。

国際財務報告解釈指針委員会委員の鶯地隆継氏は「日本においてIFRSの解決は誰が行うのか」との観点から、実利主義のIFRSと解釈指針委員会の役割、会計監査人の役割と作成者の理解、基準を共存することにより生まれる国際的コミュニケーションの重要性を話されました。

さらに日経BP社日経ビジネス副編集長の磯山友幸氏が、「国際会計基準戦争を勝ち抜く戦略」について、財務のグローバル化を前提に、日本の国益を第一に考えた意識で行うべき等を述べられました。

そして、これらのパネリストの見解をもとに本研究科教授の八田進二氏のコーディネートにより、日本の会計戦略の将来展望についてIFRS適用の意味、企業活動の観点、課題等に関して活発な議論が展開され、非常に有意義なイベントとなりました。

(会計プロフェッション研究科長 鈴木 豊 記)

国際政治経済学研究科とユニセフの共催シンポジウム 「アフガニスタンにおける子ども支援」を開催

2010年7月15日(木)、青山キャンパス大会議室にて国際政治経済学研究科グローバル・エキスパート・プログラム(GLEP)とユニセフとの共催で、公開シンポジウム「アフガニスタンにおける子ども支援」



ユニセフ親善大使 黒柳徹子氏

を開催しました。開催目的は「本学学生を含めた一般参加者に、アフガニスタンにおける子ども支援に関心を持ってもらうこと」「日本政府および民間が、アフガニスタンへの支援を継続することへの意義を理解してもらうこと」「アフガニスタンで支援を行う関係者が、より良い支援のあり方について議論すること」でした。イベントには学生はもちろん、学外者も含めて約250名の参加がありました。

当日は、まずユニセフ親善大使である黒柳徹子氏が、「トットちゃんがアフガニスタンで出会った子どもたち」という題で基調講演を行いました。アフガニスタンを訪問した経験から、9.11以降のアフガニスタンの社会と子どもたちの現状と、現在抱える問題点を指摘。今後の国際社会からの支援活動やアフガニスタン固有の必要性について説明されました。

続いて、桑名恵氏(国際政治経済学研究科講師)の司会で、「NGOの子ども支援活動とその連携」をテーマにディスカッションを開催。壇上には、ピーター・クローリー氏(国連児童基金アフガニスタン事務所代表)、成田俊介氏(JEN プログラムオフィサー)、谷山由子氏(日本国際ボランティアセンター アフガニスタン事業コーディネーター)、高橋裕子氏(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン プログラムオフィサー)の4氏が上がり、主に各団体によるアフガニスタン支援活動の実績と今後の活動のあり方について意見交換されました。

全体を通して有意義なイベントでしたが、最後に黒柳氏が語った「再びタリバンが活性化するなか、改めて勉強や教育が大切だと実感した。かつてアフガニスタンの子どもたちの将来の夢は教師・学者・裁判官・パイロットだったが、タリバンの締め付けが強く希望を叶えられなかった。しかし、それでも自殺した子どもはひとりもない。むしろ豊かな日本で自殺者がいることが残念」との言葉が印象的でした。



パネルディスカッション

(国際政治経済学研究科長 仙波 憲一 記)

国際マネジメント研究科・CFA協会ジョイント・カンファレンス 「グローバルな視点から見た日本企業のコーポレート・ガバナンス」を開催

大学院国際マネジメント研究科(青山ビジネススクール)は、2010年9月16日(木)に青山キャンパスにて、CFA協会(米国の証券アナリスト団体)とのジョイント・カンファレンス「グローバルな視点から見た日本企業のコーポレート・ガバナンス」を開催しました。本カンファレンスは、2年前に国際マネジメント研究科がCFA協会とパートナーシップを結んで以来、同協会と協力して定期的に行っている教育・啓蒙活動の一環として行われたものです。

本カンファレンスでは、まずスイスのビジネススクールであるIMDのシュワート・ハミルトン名誉教授が「貪欲、企業破綻そして近年の危機」というテーマの講演を行いました。ハミルトン教授は、引き続き起こる経済や金融市場の変動のもとで企業が破綻に至るいくつかの要因を指摘し、今後のコーポレート・ガバナンスのあり方について、いくつかの提言を行いました。



シュワート・ハミルトン名誉教授

次いで、機関投資家向けに議決権行使の助言業務を行っているISS社アジア・パシフィック調査部長のデイビッド・スミス氏が「アジア企業のコーポレート・ガバナンス」というテーマで、欧米企業と比較してのアジア

企業のコーポレート・ガバナンスの特徴について講演しました。

3番目に、コマツの駒村義範代表取締役副社長が「日本的コーポレート・ガバナンスのさらなる進化」と題して、コマツが事業のグローバル化を進めるなかで、グローバルな規模でのコーポレート・ガバナンスをどのように強化してきたかについて講演しました。

最後に、本カンファレンスのまとめとして、パネル・ディスカッション「日本企業のコーポレート・ガバナンスのさらなる進化」が行われました。ここでは、国際マネジメント研究科の北川哲雄教授の司会のもとで、檜垣誠



パネルディスカッション

司りそなホールディングス代表執行役社長、古澤知之金融庁総務企画局企業開示課長、辻本臣哉RCMアジア・パシフィック社ディレクターが、それぞれ企業、監督官庁、機関投資家の立場を代表して、日本企業のコーポレート・ガバナンスや情報開示のあり方について活発な議論を行いました。

このように本カンファレンスは、海外と日本から、学者、企業経営者、機関投資家、監督官庁といった様々な立場のスピーカーを招き、それぞれの立場から、コーポレート・ガバナンスのあり方を活発に議論するという意義ある催しになりました。

(国際マネジメント研究科長 高橋 文郎 記)

「全日本ジュニア短歌大会」で、文学部日本文学科 日置ゼミの学生の作品が入賞しました

第4回「全日本ジュニア短歌大会」(主催:日本歌人クラブ、後援:文化庁・毎日新聞社)の高校・大学生の部において、文学部日本文学科 日置俊次ゼミの学生9名の作品が見事に入賞を果たしました。今回は9名の入賞者を代表して、林田恒浩賞(選者賞)を受賞した三上一貴君、秀作賞の今野陽太君と荒牧さやかさんの3名に登場いただき、日置教授とともに受賞の喜びの声と作品創作に関するエピソードを聞きました。

林田恒浩賞

文学部日本文学科4年 三上 一貴君

ある程度よごれた水が良いのですメダカの池とわたしの部屋は

部屋は汚いなりにモノの配置など自分では使いやすく、たまに母親がきれいに掃除すると、かえって不便で居心地が悪くなってしまふ状況を、真水では長生きできないメダカに例えて表現しました。

秀作賞

文学部日本文学科4年 今野 陽太君

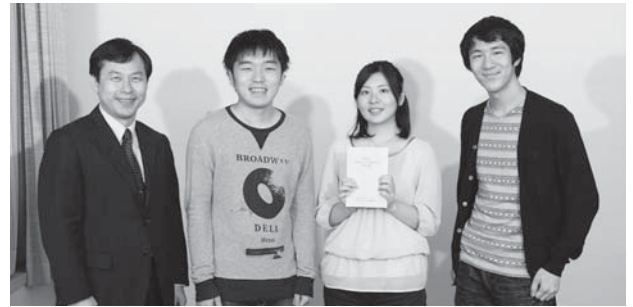
雨だれが伝うサッシに指で描く自画像は歪みながら泣いている

祖母が亡くなったときのショックが心の傷として残っていて、短歌を創作するときも、祖母のことを思い浮かべながら言葉を選ぶようになりました。この歌もそんな思いで作ったひとつです。

秀作賞 文学部日本文学科4年 荒牧 さやかさん

焼き鳥を串から外して食べるのはあなたが前に座るからです

私は焼き鳥を串を持って食べるので、この作品はフィクションです(笑)。女性の友人と食事をしたときに、彼女が焼き鳥を串から外して食べている姿を見て「かわいい」と感じたときに思いつきました。



左から日置教授、三上君、荒牧さん、今野君

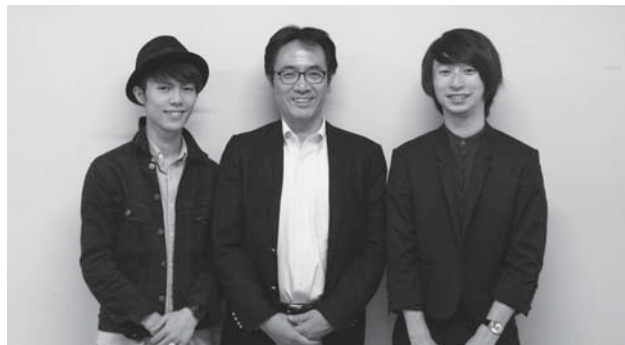
文学部日本文学科 教授 日置 俊次

自分自身が好きではない作品が高い評価を受けたり、逆に絶対の自信作が認められなかったり、短歌と付き合うことには喜びと痛みが伴います。今回の大会で入賞した作品には、いずれも選者たちの心に響くものがあったのです。他者に評価されてはじめて気づくことが数多くあります。これからも他者に作品を見てもらって学べる環境を少しでも多く学生たちに用意するつもりです。

「I-SHINビジネスプランコンテスト」で、国際政治経済学部 岩井ゼミの 石川 達也君、村石 健太郎君が優秀アプリケーション賞を受賞

第3回「I-SHINビジネスプランコンテスト」(主催:株式会社エアリア、ngi group株式会社、協力:株式会社ガイアックス、株式会社サイバーエージェント・インベストメント)において、岩井千明ゼミに所属する国際政治経済学部国際経済学科3年の石川達也君と村石健太郎君が応募した、アプリケーション企画「12-twelve-」が、「優秀アプリケーション賞」を受賞(7月14日発表)しました。同コンテストは大学発ベンチャーやその予備軍に向けての企業啓蒙を目的とし、今回からは新しく「アプリ企画」部門が創設され、2人の作品は、大賞該当作がない中での部門賞受賞です。企画の概要と受賞の喜び、さらに学生たちに学外のコンテストへの積極的な応募をすすめ、多くの学生起業家を育てている岩井教授にも話を聞きました。

「12-twelve-は、携帯電話のSNS用のアプリ企画です。従来の個人が主体のソーシャルアプリに物足りなさを感じていたので、“チームが主体”で、3人1組のチームが1回25円のトーナメント形式のゲームを勝ち抜き、優勝す



左から石川君、岩井教授、村石君

れば『高級焼き肉』や『イタリアンコース料理』などの“リアルな商品”が獲得できる画期的なゲームを企画しました。アメリカで流行しているフラッシュマーケティングの手法を取り入れて参加者を募り、128チーム集まればトーナメントが成立します。“チームで参加”“魅力的なリアルな商品”“ツイッターなどでの口コミ伝播力”“毎日開催でのリピート性”“収益性”が評価されて受賞につながりました」と石川君。受賞の感想は、「もちろんうれしいのですが、大賞でなかったのがちょっと悔しい。でも今後のふたりに期待してください」とのこと。

指導した岩井教授は「3年での受賞は立派です。発想豊かなアイデアマンである石川君と、数字に強く冷静な判断ができる村石君

がチームを組み、ゼミの先輩や仲間にも意見を聞いたり、プレゼンする方法などのアドバイスを受けたことが、受賞を後押ししました。青山・渋谷エリアに立地する青学らしく、社会のトレンドに敏感な学生が多く、多くのコンテストで成果を挙げています。彼らの受賞もゼミ生たちの刺激になります」

2010年度 課外教育プログラム活動報告

課外教育プログラム前期報告

2010年度の課外教育プログラムは、入学式も終わって間もない4月5日(月)、相模原キャンパスにて実施された「アルコールパッチテスト」を皮切りにスタートしました。アルコールパッチテストとは、新学期を迎え何かと飲酒の機会も増えるであろうこの時期に、「アルコールパッチテスト」を通して成年・未成年の区別なく、アルコールに対する知識を得てもらおうと同時に、本人の体質について理解してもらうことを目的としています。新入生、在学学生を含め多くの学生が参加してくれました。テストの結果は強く反応が出た人、少し



反応が出た人、反応が出なかった人などさまざまでしたが、参加した学生たちからは、「飲める体質と思っていたのに赤く反応が出て、本当は飲めない体質と知った

ので、今度からは気をつけようと思う」、「お酒を飲む機会には、飲める人、飲めない人がいることを理解して、お互い楽しく飲めるように心がけたい」、「飲める体質だからといって飲みすぎることなく、肝臓病や、アルコール依存症などの慢性的な病気に気をつけようと思った」といった感想がありました。

その他にも「キャンパスライフを考える — 相模原キャンパスの学生生活を考えよう —」においては、充実したキャンパスライフを送るために話し合う機会を設け、「上級救急救命法講習会」では、渋谷消防署・相模原キャンパスにて緊急時に必要となる心肺蘇生法・AEDの使用方法等についての講習会が実施されました。

後期活動内容と今後の予定

●手話講習会(集中講座 3日間) 9月15日(水)~17日(金) (実施済)

企画・目的: 講習会を通して、手話への理解と聴覚障害学生への支援活動を行いました。

●上級救急救命法講習会 10月6日(水) (実施済)

企画・目的: 災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも必要な救命講習を実施しました。

●旬野菜の健康家庭料理(秋企画) 11月28日(日)

企画・目的: 食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。

Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
TEL.03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。

下記大会・演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2010年10月~12月)

合気道部 第50回全国学生合気道演武大会(12月)
アイススケート部(ホッケー部門) 関東大学アイスホッケーリーグ戦(10月)
アイススケート部(フィギュア部門) 東日本学生氷上競技選手権大会(10月)
アメリカンフットボール部 秋期リーグ戦(9~12月)
居合道部 第43回東日本学生居合道大会(10月)
空手道部 関東空手道選手権大会(10月)
硬式庭球部 関東大学対抗テニス選手権大会(10月)
硬式野球部 東都大学秋季リーグ戦(9~10月)
剣道部 全日本団体(10月)
航空部 第13回全日本グライダー新人競技大会(10月)
拳法部 東日本選手権(10月)
サッカー部 JR東日本2010第84回関東大学サッカーリーグ戦(9~11月)
柔道部 全日本学生柔道体重別選手権大会(10月)
準硬式野球部 東都大学準硬式野球秋季リーグ戦(9~11月)
少林寺拳法部 第44回少林寺拳法全日本学生大会(11月)
ソフトテニス部(男子) 関東学生ソフトテニス大会(秋期)(10月)
ソフトテニス部(女子) 東都秋季リーグ(10月)
水泳部 関東学生ウィンターカップ公認記録会(12月)
卓球部 全日本学生卓球選手権大会(10月)

チアリーディング部 第8回北日本チアリーディングフェスティバル(11月)

軟式野球部 東都大学軟式野球連盟新人戦(11月)

バスケットボール部(男子) 第86回関東大学バスケットボールリーグ戦(9~10月)
第62回全日本大学バスケットボール選手権(11~12月)

馬術部 第45回オリンピック記念馬術大会(10月)

バドミントン部(男子) 全日本学生バドミントン選手権大会(10月)

バドミントン部(女子) 全日本大学学生選手権大会(10月)

バレーボール部(女子) 秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦(9~10月)

バレーボール部(男子) 平成22年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦(9~11月)

パワーリフティング部 関東学生選手権(11月)

フェンシング部 関東学生選手権大会(10月)

レスリング部 全日本大学グレコローマン選手権大会(10月)

陸上競技部 第22回出雲全日本大学選抜駅伝(10月)

ラグビー部 関東大学対抗戦Bグループ公式戦(9~11月)

ラクロス同好会 新人戦ウィンターステージ(12月)

青山フォークウエイズ 新人コンサート(11月)

アナウンス研究会 発表会(10月)

箏尺八研究会 定期演奏会(10月)

競技ダンス部 東都大学学生競技ダンス選手権大会(10月)

天野杯争奪学生競技ダンス対抗戦(11月)

東都日本学生競技ダンス選手権大会1部戦(11月)

E.S.S. チャーチル杯スピーチ大会(11月)

オーケストラ部 第97回定期演奏会(11月)

グリーンハーモニー合唱団 グリーンハーモニー合唱団第56回定期演奏会(12月)

ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 定期演奏会(12月)

オラトリオ・ソサエティ合唱団 KAY合唱団演奏会(12月)

News Index 2010.7~10

2010年7月~10月上旬の大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

2010年7月

- 「2010年度FDフォーラム ~2009年度教育改善・教育プログラム成果報告会ならびに新任教員研修会~」を開催
- バドミントン部が、シブヤ大学において「みんなで、レッツマッシュ! ~ 航空部と学ぶバドミントン~」の授業を行いました

2010年8月

- 「第3回 I-SHINビジネスプランコンテスト」において、国際政治経済学部岩井ゼミのチームが優秀賞を獲得しました
- 青山学院大学と相模原ライズ(旧オンワードオックス)の合意調印式・記者会見が行われました

- 第4回「全日本ジュニア短歌大会」で文学部日本文学科 日置俊次ゼミの学生9名の作品が林田恒浩賞(選者賞)等に入賞しました

2010年9月

- レスリング全日本学生選手権で青木成樹選手が準優勝
- 航空部が大学対抗グライダー競技会「第14回原田覚一郎杯」で初優勝
- バドミントン部 東日本学生選手権で女子ダブルス準優勝
- 出雲駅伝(10/11)に本学陸上競技部が初出場します
- 本学学生チームが全日本学生フォーミュラ大会に参戦しました

2010年10月

- 公開フォーラム「戦争体験の継承と平和認識」の講演を収録した刊行物「戦争を伝えることば」を発行しました
- 国際政治経済学部4年の山越理史さんが第18回経済学検定試験(ERE)で好成绩を取得

2010年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部にも所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨

励に資することを目的に贈られます。

2010年度は6月16日(水)、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂にて授与式が行われました。

〈給付奨学金・学部〉

教育学科/兼子 杏里
 教育学科/清宮 愛絵理
 英米文学科/岩田 侑子
 英米文学科/木下 彩加
 フランス文学科/早川 恵未
 日本文学科/津ノ井 舞
 史学科/山本 由美子
 心理学科/増田 千晃
 経済学科/加藤 积美良
 経済学科/井田 隼人
 経済学科/平沢 友希
 法学科/栗原 明日香
 法学科/秋葉 俊孝
 法学科/金原 光俊
 経営学科/小山田 寛史
 経営学科/鈴木 彰人
 経営学科/中島 大輔
 国際政治学科/生須 美輝
 国際経済学科/松永 いづみ
 国際経済学科/永松 パオラ睦美
 総合文化政策学科/西山 京子
 総合文化政策学科/小嶋 万美子
 物理・数理学科/大久保 直人
 化学・生命科学科/大場 妃香里
 電気電子工学科/津田 祐己
 機械創造工学科/遠藤 亮雄
 経営システム工学科/井出 貴也
 情報テクノロジー学科/吉村 拓真
 社会情報学科/薛 直美
 社会情報学科/田中 咲季
 第二部教育学科/大津 悠
 第二部英米文学科/露木 麻未
 第二部経済学科/吉村 直紀
 第二部経営学科/永谷 直子

英米文学科/斎藤 美伶
 英米文学科/箕輪 麻衣子
 英米文学科/阿部 なつ美
 英米文学科/高田 英実
 英米文学科/宮本 あすか
 フランス文学科/西脇 彩奈
 フランス文学科/瀬上 由佳
 フランス文学科/佐野 陽香
 フランス文学科/堀江 柚衣子
 日本文学科/渡部 美幸
 日本文学科/大村 理沙
 日本文学科/平井 隆介
 日本文学科/七戸 音哉
 史学科/須藤 典子
 史学科/小倉 碧
 史学科/小久保 香里
 史学科/牧野 礼奈
 心理学科/村山 幸子
 心理学科/若月 智恵美
 心理学科/廣澤 のぞみ
 経済学科/榎澤 祐一
 経済学科/徐 雪霜
 経済学科/関 貴裕
 経済学科/高野 寿哉
 経済学科/辻本 顕
 経済学科/上村 波留香
 経済学科/小澤 俊亮
 経済学科/鴨居 七生
 経済学科/松田 遼
 経済学科/岡崎 聖
 経済学科/藤森 美咲
 経済学科/山口 聡美
 経済学科/山下 惇
 現代経済デザイン学科/堤 知夏
 現代経済デザイン学科/小野 悠二郎
 法学科/五十嵐 安那
 法学科/白川 美穂
 法学科/山形 桂

法学科/山崎 里穂子
 法学科/吉田 大輝
 法学科/阿部 浩和
 法学科/関戸 まり子
 法学科/高味 紗樹子
 法学科/田沼 恵
 法学科/若松 牧
 法学科/金丸 有希
 法学科/黒川 結
 法学科/菅原 香奈
 法学科/本間 健慈
 法学科/山下 雅也
 経営学科/五十嵐 康俊
 経営学科/大関 温子
 経営学科/加賀 万里絵
 経営学科/原 聖来
 経営学科/吉田 有希子
 経営学科/後藤 百合香
 経営学科/中島 康介
 経営学科/山崎 和子
 経営学科/山本 果歩
 経営学科/若槻 飛澄
 経営学科/岡本 真理
 経営学科/平山 昌樹
 経営学科/山口 透
 マーケティング学科/新川 真美
 マーケティング学科/知見 亮
 国際政治学科/大河原 竜
 国際政治学科/片山 美貴子
 国際政治学科/杉山 晶子
 国際経済学科/井上 尚美
 国際経済学科/孫 榕
 国際経済学科/小島 彩里衣
 国際経済学科/土山 彩夏
 国際コミュニケーション学科/實田 真衣
 国際コミュニケーション学科/小宮 明子
 国際コミュニケーション学科/松尾 あずさ
 総合文化政策学科/片岡 純一

総合文化政策学科/小谷 沙百合
 総合文化政策学科/後藤 薫子
 総合文化政策学科/秋山 麻菜美
 総合文化政策学科/勝又 君恵
 総合文化政策学科/國宗 陽介
 物理・数理学科/石川 拓也
 物理・数理学科/富樫 晶
 物理・数理学科/内藤 吉雅
 化学・生命科学科/田中 亜季
 化学・生命科学科/横田 由以
 化学・生命科学科/吉田 怜
 電気電子工学科/安西 新
 電気電子工学科/大神 直哉
 電気電子工学科/齋藤 卓也
 機械創造工学科/成田 康浩
 機械創造工学科/中村 眞実
 機械創造工学科/竹木 佑美映
 経営システム工学科/石井 智之
 経営システム工学科/坂内 芽以子
 経営システム工学科/八木 祐太
 情報テクノロジー学科/福岡 栄奈
 情報テクノロジー学科/齋藤 翔平
 情報テクノロジー学科/宮下 純一
 社会情報学科/桐下 拓也
 社会情報学科/杉中 萌子
 社会情報学科/伊藤 美於
 社会情報学科/濱口 実来
 第二部教育学科/相川 公代
 第二部教育学科/古木 大悟
 第二部英米文学科/杉山 洋子
 第二部英米文学科/田邊 正行
 第二部英米文学科/アイニストン・アンジェラ
 第二部経済学科/伊佐 圭司
 第二部経済学科/川口 裕子
 第二部経済学科/山上 廣子
 第二部経営学科/中川 道夫
 第二部経営学科/松本 深雪

〈給付奨学金・外国人留学生〉

経済学科/金 智瑛
 法学科/樊 漪
 経営学科/李 静
 経営学科/黄 雅婷
 マーケティング学科/全 喜硬
 国際政治学科/金 美花
 国際政治学科/盧 秀彬
 国際経済学科/孫 榕

〈学業奨励賞〉

教育学科/小林 理人
 教育学科/高橋 まゆみ
 教育学科/仲村 拓真
 教育学科/梅澤 冬紀
 教育学科/中島 和
 英米文学科/中村 理佐
 英米文学科/平岩 史子
 英米文学科/文字 夏樹
 英米文学科/岩井 恵利奈
 英米文学科/梅野 美穂



青山学院大学後援会報告

2010年7月23日(金)、青山学院大学後援会評議員会(総会)がアイビーホール青学会館において開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にして意思の疎通を図り、大学の教育および研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、青山学院大学に在籍する学生の父母ならびに保証人その他の有志によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏並びに地区別に開催されるペアレンツウィークエンド開催諸経費等その内容

は多岐にわたります。

評議員会は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および決算報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員を選出が行われます。

会長に相川和宏氏、副会長に岩田圭介氏、同じく副会長に岡部幸夫氏の再任をはじめ、新任・継続あわせて72名の役員が選出されました。

評議員会終了後、場所を移し役員、学長ほか大学教職員をまじえ、交歓のひとつきもたれました。

2009(平成21)年度

大学後援会決算報告書

収入の部

(単位 円)

科目	予算	決算	差異
前期繰越金	11,755,948	11,755,948	0
会費収入	106,190,000	108,436,000	△ 2,246,000
合計	117,945,948	120,191,948	△ 2,246,000

支出の部

(単位 円)

科目	予算	決算	差異
学生活動関係			
学友会活動補助	30,500,000	30,489,139	10,861
学友会活動指導補助	14,000,000	13,250,000	750,000
保険料	18,800,000	18,795,150	4,850
奨学金事業補助	14,500,000	14,500,000	0
大学行事補助	1,500,000	671,177	828,823
アドバイザーグループ会費補助	1,000,000	810,000	190,000
ゼミナール活動等補助	1,200,000	500,000	700,000
教育環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0
奨励金	1,000,000	0	1,000,000
後援会行事関係			
ペアレンツウィークエンド費	19,200,000	18,891,196	308,804
旅費交通費	100,000	60,000	40,000
会議費	1,200,000	988,698	211,302
消耗品費	50,000	323	49,677
通信費	50,000	32,400	17,600
その他			
慶弔費	500,000	220,000	280,000
貸付金	0	3,000,000	△ 3,000,000
【予備費】	4,345,948	0	4,345,948
支出計	117,945,948	112,208,083	5,737,865
次期繰越金	0	7,983,865	△ 7,983,865
合計	117,945,948	120,191,948	△ 2,246,000

2010(平成22)年度

大学後援会予算

収入の部

(単位 円)

科目	2010年度予算	2009年度予算	差異	摘要
前期繰越金	7,983,865	11,755,948	△ 3,772,083	会費収入内訳
会費収入	109,190,000	106,190,000	3,000,000	第1部 @6,000円 × 16,830名 = 100,980,000円 大学院 @3,000円 × 1,470名 = 4,410,000円 第2部 @4,000円 × 950名 = 3,800,000円
合計	117,173,865	117,945,948	△ 772,083	

支出の部

(単位 円)

科目	2010年度予算	2009年度予算	差異	摘要
学生活動関係				
学友会活動補助	30,500,000	30,500,000	0	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	14,000,000	14,000,000	0	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保険料	19,420,000	18,800,000	620,000	学生教育研究災害傷害保険(通学時含む)
奨学金事業補助	14,500,000	14,500,000	0	経済支援奨学金事業への補助
大学行事補助	1,500,000	1,500,000	0	大学行事補助
アドバイザーグループ会費補助	1,000,000	1,000,000	0	アドバイザー・グループ会費補助
ゼミナール活動等補助	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	ゼミナール活動補助他
教育環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0	教育環境整備補助
奨励金	500,000	1,000,000	△ 500,000	ボランティア活動・研究発表優秀賞受賞者交通費補助他
後援会行事関係				
ペアレンツウィークエンド費	20,640,000	19,200,000	1,440,000	首都圏及び地区別ペアレンツウィークエンド開催諸費用
旅費交通費	100,000	100,000	0	事務連絡交通費
会議費	1,200,000	1,200,000	0	評議員会・懇親会費用
消耗品費	50,000	50,000	0	事務用消耗品
通信費	50,000	50,000	0	役員会・評議員会通信費
その他				
慶弔費	500,000	500,000	0	学生・教職員の弔慰金
【予備費】	2,213,865	4,345,948	△ 2,132,083	
合計	117,173,865	117,945,948	△ 772,083	

青学オープンカレッジ 青山リレートーク

日米の愛憎関係のシンボルとしての
ラフカディオ・ハーン青学オープンカレッジ <http://www.j-aoyama.jp/>平川 祐弘
(東京大学名誉教授)

青学オープンカレッジでは、学内外の各分野での第一人者の方々をお招きして「青山リレートーク」(無料)を開催しています。7月3日に開かれた今年3回目のリレートークでは、比較文学者で東京大学名誉教授の平川祐弘氏がラフカディオ・ハーンについて話をされました。ここにその一部をご紹介します。

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)とは

『怪談』や『知られぬ日本の面影』をはじめとした、日本に関する多くの著書を残したラフカディオ・ハーン(1850~1904年)は、19世紀後半の当時としてはほとんど稀であったアメリカから日本への帰化を果たした人物です。1890年来日し島根県松江の中学校に英語教師として赴任したハーンは、その翌年に日本人女性の小泉節子と結婚。熊本で同じく英語教師、神戸で英字新聞の記者を勤めた後、1896年に東京帝国大学(現東京大学)の教授に就任し、その年に日本名・小泉八雲を名乗りました。

私がハーンに特別な興味を抱いているのは、米英と日本で評価の差が顕著であるからです。日本では夏目漱石や志賀直哉、芥川龍之介といった文豪たちをはじめ多くの人々から称賛を受けていますが、米英では例外的な少数派を除き、否定的な見方をされることがほとんどです。

日本で愛される小泉八雲、アメリカで嫌われるラフカディオ・ハーン——“日米の愛憎関係(love-hate relationship)”を論じるには、最適なケーススタディとなる人物ではないでしょうか。

作品への評価とその推移

ハーン作品には、「既存の作品を着色しているだけに過ぎない」といった批判が多く寄せられます。実際にハーンは、江戸時代につくられた怪談や土地の言い伝えを、デフォルメを加えながら英訳しましたが、既成物を想像力に

よって芸術へ昇華させるのは、作家として当然の行為であり、この批判は必ずしも的を射ているとはいえません。もしハーンが原語を忠実に訳していたら、作品が自立した芸術として受け入れられることはなかったでしょう。

また、「日本を誇張して美化した」との批判もあります。西欧中心主義者にとってハーンは、「日本などに惚れてしまった愚かな男」であり、生前から「ハーンは土人になった(Hearn went native)」と陰で言われていました。それでも、ハーンが日本に関する作品を発表した当時は、「日本文化の紹介者」として功績を称えられました。その評価が覆ってしまったのは1930年代で、日本が軍国主義へ傾斜していくにつれ、ハーンへの評価も比例して落ちていきました。

西洋と日本に揺れたハーン

ハーンが残した作品の中に、長年の西洋滞在を終え帰国する日本青年が、横浜湾の船上で富士山の美しさに感動する様子を描いた「ある保守主義者」があります。その主人公は、一度は西洋文化を至上と考へながらも、留学生活の中で日本への思いをあらためて強くした思想家。文中では、朝焼けとともに現れた富士山と青年の祖国に対する思いが重なっていく心情が、見事に表現されています。

このような日本人の心情をハーンが描けたのは、ハーン自身が日本と西洋への思いに大きく揺れた人物だったからです。一時は「屋内で靴を履く西洋の生活より、畳の上で過ごす日

本の生活の方が道徳的」と言ったかと思えば、熊本に赴任した当時はその孤独感から「日本と西洋の違いは、友人がいるかいないかだけだ」と語ったこともありました。このような日本への愛憎、西洋回帰への情をもったからこそ、西洋への憧れを抱いた日本人の日本回帰も理解できたのです。

日本に求められる
バランスのとれたナショナリズム

現在、世界は交通手段や通信技術の発達によりグローバル化の時代を迎えています。このような背景の中で、自国への愛国心を否定的に捉える方もいますが、家族を愛するように、自国を愛せなければ、それは不幸なことではないでしょうか。すべての国が平等であるために、自国を特別に思ってはならないという主張は、一見かっこうがいいですが、健康な考え方とはいえません。外国と面と向かって対話し良好な関係を築いていくには、右にも左にも傾かないバランスのとれたナショナリズムが必要なのです。

ハーンは西洋人として生まれながら日本人の視点で日本を描こうとした人物です。日本人とアメリカ人のハーンに対する評価にギャップがあるのは、価値観や国への心情が、その認識に影響を及ぼしているからに他なりません。私はそのギャップの中に、日本が世界の中でどうあるべきかを考えるヒントがあると考えています。



満席となった会場



質問に答える平川祐弘氏

2010年度 就職関係行事について

9月21日(火)からの就職ガイダンスを皮切りに、2010年度の就職活動支援行事がスタートいたしました。主な行事の日程・内容を掲載いたします。

青山キャンパス

行事タイトル	対象者	日程	備考
就職ガイダンス(学部別に実施)	2011年度卒業生対象	9月21日(火)～29日(水)	2012年3月卒業・修了生対象の第1回就職ガイダンス。青山学院大学生の進路状況と今後の支援スケジュール説明。青学オリジナルガイドブック配付。
テーマ別・マスコミ就職セミナー	学部3年生・院1年生	9月29日(火)	マスコミ志望の学生のために、業界の採用動向や仕事の実態を説明します。
・女子学生就職セミナー	学部3年生・院1年生	10月5日(火)8日(金)	キャリアデザインを描き、女性としての働き方を考えましょう。
・マナー講座	学部3年生・院1年生	11月5日(金)9日(火)	説明会、面接、OB・OG訪問。あらゆる場面で必要となる基本的なマナーについて。①講義編 ②実践編
・OBIによるマスコミQ&A	学部3年生・院1年生	10月20日(水)	マスコミ青山会協力行事。マスコミ業界で働く卒業生の生きたお話が聞けます。
・CA・GS就職セミナー	学部3年生・院1年生	10月12日(火)13日(水)	CA(キャビンアテンダント)、GS(グランドスタッフ)の仕事について。航空業界の現状と採用の流れを説明します。
・ふるさと・地方就職セミナー	学部3年生・院1年生	未定	Uターン、Iターンを目指す人の情報収集の仕方、企業研究などを説明します。
自分理解と表現力・履歴書書き方講座	学部3年生・院1年生	10月1日(金)2日(土)	これまでの人生を洗い出し、簡潔にまとめ、効果的に大学指定の履歴書に表現できるように説明します。
自己分析と業界研究・ES対策セミナー	学部3年生・院1年生	10月～12月	就職活動の第一歩。自己分析と業界研究について解説します。
試験対策・SPI2試験対策セミナー	学部3年生・院1年生	10月6日(水)8日(金)	筆記試験の代表格であるSPI2模擬試験を体験することで対策の方向性を明らかにします。
・一般常識テスト対策セミナー	学部3年生・院1年生	10月13日(水)15日(金)	筆記試験のもうひとつの柱である一般常識模擬試験を受けて、実力を確認しましょう。
外国人留学生のための就職ガイダンス	外国人留学生	10月28日(木)	日本における就職活動の注意点等を説明します。
業界研究・今、注目の業界	学部3年生・院1年生	10月中旬	業界研究の仕方や様々な業界の全体像について説明します。
・業界研究企業セミナー	学部3年生・院1年生	11月中旬～12月中旬	業界をリードする企業の人事担当者やOB・OGによる説明会。教室形式およびブース形式。
・OBOGによる業界説明	学部3年生・院1年生	11月6日(土)	青学OBやOGが、本音で自身の業界や企業の説明をします。
4年生内定者とのトークセッション	学部3年生・院1年生	11月12日(金)17日(水)	納得のいく就職活動をして内定を得た4年生から、体験に基づく生きた情報を聞き出しましょう。
面接対策・総括	学部3年生・院1年生	11月24日(水)	採用試験で必ず行われる面接に向け、自信を持って臨むための心構えを聞き、模擬面接へと繋ぐシリーズ。
・グループディスカッション	学部3年生・院1年生	12月7日(火)	最近多く実施されるグループディスカッションを、体験を通して理解します。
・卒業生による模擬面接	学部3年生・院1年生	12月4日(土)11日(土)	OB・OGの協力で本番さながらの模擬面接を体験します。
社会人準備講座・年金と保険について	全学生対象	11月10日(水)	青学社労士会の協力による、社会に出る前に知っておきたい年金や保険についての説明です。
・労働法について	全学生対象	11月11日(木)	青学社労士会の協力による、社会に出る前に知っておきたい労働基準法など労働法についての説明です。
1・2年生対象 卒業後の進路について知るセミナー	学部1・2年生	12月中旬	民間就職、公務員、教員、大学院進学、留学。多様な進路を知り、可能性を広げましょう。
2年生対象 大学生のキャリアプラン講座	学部2年生	11月10日(水)～12月1日(水)	シリーズ4回。第1回で就職活動の全体像を理解、2回、3回で「論理的思考、批判的思考」を鍛え、4回目にESを作成します。
官公庁等採用試験説明会		10月4日(月)～14日(木)	国家・地方公務員採用担当者による業務内容、採用試験の説明。
公務員試験対策セミナー	公務員志望者	10月20日(水)	2010年度の公務員採用試験の傾向と、来年度受験に際しての心構え。
公務員試験合格者報告会		12月15日(水)	公務員試験に合格した4年生による、勉強の方法やモチベーションの維持等アドバイス。
教員選考学内説明会(東京都、神奈川県)		12月8日(水)	東京都、神奈川県の教員採用選考担当者が、採用試験の実施状況などを説明します。
教員選考学内説明会(横浜市、相模原市)	教員志望者	12月9日(木)	横浜市、相模原市の教員採用選考担当者が、採用試験の実施状況などを説明します。
教員選考学内説明会(埼玉県、川崎市)		12月10日(金)	埼玉県、川崎市の教員採用選考担当者が、採用試験の実施状況などを説明します。
教員採用模擬試験		12月11日(土)	来年度教員採用試験受験者のための公開模試を、学内価格で実施。

※欠席者フォローのため、主要行事をWeb Ashで動画配信しています。

相模原キャンパス

行事タイトル	対象者	日程	備考
就職ガイダンス・内定者報告会	学部3年生・院1年生	9月29日(水)	就職全般のオリエンテーション・就職内定した先輩の貴重な活動体験を聞く会
キャリアアプローチ	学部3年生・院1年生	10月8日(金)	適性や志向を知ること、自己PRや志望動機作成の基礎をつくる
製薬業界説明会・業界内定者相談会	化学系3年生・院1年生	10月13日(水)	製薬・化学品会社等に内定した先輩による相談会
一般常識テスト	学部3年生・院1年生	10月15日(金)	国語・数学・理科・英語・社会・時事などの基礎的な学力・教養力のテスト
Myカルテ説明会	学部3年生・院1年生	10月22日(金)	[Web Ash]から利用できる適性検査やエントリーシート添削システムの説明
SPI-2模擬テスト	学部3年生・院1年生	10月20日(水)	多くの企業が実施している代表的適性検査
自己PR文作成講座	学部3年生・院1年生	10月25日(月)	キャリアアプローチの結果をもとに、自己PR文を作成する
CAB・GAB模擬試験	学部3年生・院1年生	10月27日(水)	IT・コンサルティング・商社業界などで多く実施している能力適性検査
エントリーシート対策講座	学部3年生・院1年生	11月5日(金)	自己分析・エントリーシートについて学び、実際に作成する
職種研究セミナー	学部3年生・院1年生	11月12日(金)	多岐にわたるメーカー企業の職種を知り就職先の参考にする
業種別内定者による報告・相談会	学部3年生・院1年生	11月17日(水)～26日(金)	自動車・電気・IT・運輸通信などの企業に内定した先輩による相談会
合同企業セミナー	学部3年生・院1年生	11月17日(水)～12月10日(金)	各業界のリーダー的企業による業界の仕事内容などの説明会
個別企業説明会・相談会	学部4年生・院2年生	12月15日(水)	各企業の採用担当者による企業説明と職員による就職活動に関する相談会
学科就職ガイダンス(理系)	学部3年生・院1年生	1月中旬	学科就職担当委員による学校推薦方法、内部進学などの説明会
最終確認SPI-2模擬テスト	学部3年生・院1年生	1月14日(金)	10月に受験してからの勉強成果を試すテスト
模擬グループ面接・個人面接	学部3年生・院1年生	1月15日(土)	第一印象、入退室のマナー、人事の視点、頻出問題を知り突破力をつける
学内企業説明会	学部3年生・院1年生	2月3日(木)～9日(水)	各企業の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会
プレ就職講座	学部1・2年生	10月21日(木)～11月4日(木)	なりたい自分になる、社会で求められる能力など自分自身のスキルアップ
4年生のアドバイズ	学部1・2年生	11月10日(水)	企業を選択した基準は何か、1・2年生でやっておくべきこと等のトーク
留学と就職セミナー	学部1・2年生	11月17日(水)	留学希望者のための就職ガイダンス、留学後の就職活動についての説明
日経キャリア講座	学部1・2年生	12月17日(金)17日(金)	今何が起き、将来にどう影響があるかを、経済を視点に学ぶ
就活体験講座	学部2年生	12月14日(火)16日(木)	業界・職種やエントリーシートに関する説明など就職に対する意識づけ
公務員試験対策講座	学部1・2年生	1月11日(火)	春期講座、青山キャンパスでの対策講座の紹介

半田 正夫 氏を青山学院理事長に選任



学校法人青山学院は、9月15日(水)開催の臨時理事会において、半田正夫氏を、学校法人青山学院理事長に選任いたしました。任期は、2010年10月1日～2012年3月31日まで。

■経歴 1956年北海道大学法学部卒業。同大学大学院法学研究科修士課程修了。法学博士。

71年青山学院大学法学部に就任、74年教授。87～89年法学部長、99年～03年学長、04年退職(定年)、同年名誉教授、04年～10年青山学院常務理事、07年～10年青山学院副院長、08～10年青山学院院長代行。

外部委員および受賞歴は、(社)日本複写権センター理事長(99年～)、日本テレビ放送網株式会社番組審議会委員長(01年～)、文部科学省文化審議会委員(著作権分科会)(01～03年)、文部大臣表彰(著作権100年特別功労者)(99年)、(社)日本レコード協会特別功労賞(02年)など多数。

「大学案内2011」をウェブサイトで公開中

大学紹介・学部学科紹介や入学試験データ&ガイドを記載した大学紹介パンフレット「大学案内2011」を本学ウェブサイトで公開しています。下記のアドレスにてご覧いただけます(内容の一部抜粋)。

<http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html>

資料請求をご希望の方は、本学ウェブサイト「入試・入学案内(学部):大学紹介パンフレット請求方法」からご請求ください。

学生支援の奨学金募金

「青山学院 エバーグリーン募金」

「奨学金募金」はご寄付により奨学金を給付し、学生を支援する募金制度です。勉学および課外活動に意欲的な学生、困難の中で懸命に努力する学生を経済的側面から支援し、学費や生活費の負担軽減で、学生に安心と充実を与えるものです。

みなさま一人ひとりの思いやりが大きな支援につながります。

ご協力をお考えの際は、募金事務局までご連絡ください。パンフレットをお送りいたします。

募金事務局(間島記念館1階) TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890

オープンキャンパス開催報告

2010年度オープンキャンパスは、7月25日(日)に相模原キャンパス、8月1日(日)および8月28日(土)に青山キャンパスで開催しました。相模原キャンパス4,635名、青山キャンパス(8/1)18,689名、(8/28)16,372名の高校生・受験生とその保護者の方が来場しました。計3回の総来場者数は39,696名となり、過去最高となりました。学部・学科紹介企画や青山スタンダード紹介、各学部の英語入試問題解説や模擬授業など、さまざまな企画を実施しました。また青山キャンパスでは学生団体によるアトラクション、相模原キャンパスでは在学生のツアーガイドによるキャンパスツアー、そして、全日程にわたりボランティアによる学生スタッフが受付、案内、記念品進呈などで活躍してくれました。



青山キャンパスでのボランティア学生のみなさん



相模原キャンパスでのボランティア学生のみなさん



相模原キャンパスツアースタッフのみなさん

Club&Circle 4 青山学院大学吹奏楽バトントワリング部

見て楽しく、聴いて楽しいステージをお魅せします!

学友会直属団体である吹奏楽バトントワリング部は、吹奏楽パートとバトンパートから構成されています。吹奏楽とバトントワリングとの共演は大学のなかでも珍しく、見て楽しく、聴いて楽しいショーは、当部最大のアピールポイントです。通常は、学園祭やオープンキャンパスなどのイベント時に華やかなステージを披露していますが、企業などからのオファーに応じて演奏・演技を行う機会も増えてきました。またそれぞれのパートが所属する連盟のコンサートやコンクールにも積極的に出場しています。

今年は夏の吹奏楽コンクールで吹奏楽パートが銀賞を受賞し、またバトンパートも精力的にステージをこなすなど、充実した活動が展開できています。そして12月12日(日)には、千葉県森のホール21にて、私たちの1年間の集大成でもある「第43回定期演奏会」を開催します。力強い演奏と華麗に躍るバトントワラーとの楽しいコラボレーションに、ぜひご期待ください。

(部長:理工学部物理・数理学科4年 長久 航)

オープンキャンパスでのアトラクション



写真提供:第一部卒業アルバム委員会

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ

青山学院大学 ● 2010年10月20日発行 ●

